



2016年度 天文資料

平成28年度 第6号 (9月号)

平成28年 9月15日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



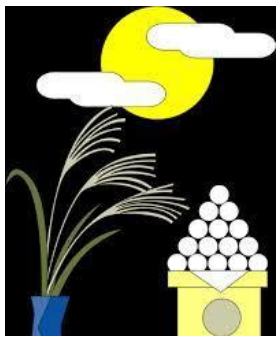
<9月の天文現象>

9月と言えば**中秋の名月**、**今年は9月15日(木)**です。この日は旧暦の8月15日にあたり、年中で**最も美しい月**が見られるという日です。しかし、この日は**満月**ではありません。**満月は2日後の17日(土)**です。またこの日は満月が地球の半影に入り込む**半影月食**が起こります。ただし、この現象は肉眼で確認するのはかなり**難しい**ものです。

また、9月も終わりに近づくと**29日(木)**、**明け方に細い月と水星が接近**して見えます。この日水星は太陽の西側(前)に大きく離れる**西方最大離隔**、太陽の近くにあるために**見ることが難しい水星が見やすくなる**ときです。また、近くに月があるので、それが**目印**になります。

今回は、お月見と半影月食、そして水星を取り上げます。

<お月見について>



旧暦の8月15日は**中秋の名月**。旧暦の8月は今の暦では大体9月にあたります。**今年**の中秋の名月は**9月15日(木)**になります。ところで、月を眺めて楽しむ風習は、**9世紀に中国の宋から伝わり**、たちまち公家の間に広まりました。この風習が庶民に広がるのは、もっと時代が下がった**江戸時代初期**のことです。旧暦の8月はサトイモの収穫期と重なるため、**お月見のときにサトイモを食べる**ようになりました。この時代は、まだ団子を食べる習慣はなく、**団子を食べようになるのは、江戸時代中期以降**です。

現代では、お月見のお供え物と言えば、**ススキに団子**が挙げられます。また、その時期に収穫される**サトイモ**や**サツマイモ**を供える習慣もあり、中秋の名月を「**芋名月**」と呼ぶこともあります。また、それ以外に季節の野菜や果物などを供えることもあります。



サトイモ



サツマイモとその他野菜・果物

中秋の名月から約1か月後の**旧暦9月13日(新暦の10月)**の月を「**十三夜**」または「**後の月**」といい、この日にも月をながめる習慣があります。そして、この時期に収穫される大豆や粟を供えることから、「**豆名月**」とか「**粟名月**」とも呼ばれます。

さらに約1か月後の**旧暦10月10日(新暦の11月)**の月を「**十日夜の月**」として、この日の月が**収穫の終わりを告げる**とされました。

<9月17日は満月、半影月食>

中秋の名月の2日後、**9月17日は満月**で、この日**半影月食**が起こります。16日の夜半過ぎ**17日未明4時頃**が**最も大きく欠けます**。満月の北側(上側)が欠けますが、**肉眼で見分けるのはかなり困難**です。写真に撮ると**欠けているようすがわかります**ので、夜中に起きる自信のある人は、チャレンジしてみてください。



半影月食

<9月29日明け方水星と細い月が接近>

水星は、**太陽に近いところにあるために、とても見つけにくい惑星**です。見えるときは、**太陽が沈んだ後の夕方西の空か、太陽が昇る前の東の空**に見えますが、**空が明るいためになかなか見えないのが現状**です。

9月29日(木)は、**西方最大離隔**となり、**明け方東の空**で見えやすくなります。この日は**近くに月齢27.4の細い月**があるので、それを**目印**にすると見つけやすいでしょう。

早起きして、明け方に**輝く水星**を見てみましょう。

